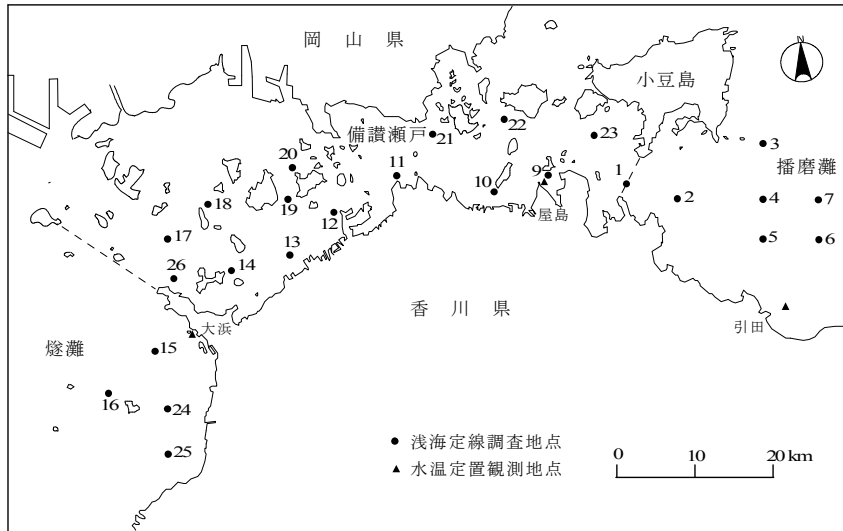


香川県漁海況速報 平成22年2月 (H21-11号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成22年2月1日（備讃瀬戸，燧灘），5日（播磨灘）

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温及び塩分は「平年並みからやや高め」、透明度は「平年並みから著しく高め」、溶存酸素は「平年並みからやや高め」であった。

2月

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度 (m)	溶存酸素 (ml/l)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層		表層	底層
播磨灘	7地点平均値	9.0	9.0	9.0	33.0	33.0	33.2	8.4	6.30	6.36
	平年値	9.3	9.3	9.2	32.7	32.7	32.8	8.9	6.42	6.35
	平年偏差	-0.3	-0.3	-0.3	0.3	0.3	0.4	-0.5	-0.12	0.01
	標準偏差(σ)	0.9	1.0	1.0	0.5	0.5	0.5	1.7	0.32	0.31
	状況	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	平年並み	平年並み
備讃瀬戸	14地点平均値	9.5	9.5	9.5	33.3	33.3	33.3	5.8	6.37	6.27
	平年値	9.1	9.1	9.1	32.8	32.8	32.8	6.0	6.38	6.38
	平年偏差	0.3	0.4	0.3	0.5	0.5	0.5	-0.2	-0.01	-0.11
	標準偏差(σ)	0.9	0.9	0.9	0.6	0.6	0.6	1.4	0.30	0.31
	状況	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	平年並み	平年並み
燧灘	4地点平均値	10.1	10.2	10.3	33.4	33.5	33.5	13.1	6.77	6.56
	平年値	9.9	9.9	9.9	33.0	33.0	33.1	7.5	6.52	6.47
	平年偏差	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	5.6	0.25	0.09
	標準偏差(σ)	0.8	0.9	0.9	0.5	0.5	0.5	1.2	0.35	0.39
	状況	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	著しく高め	やや高め	平年並み

平年偏差＝平均値－平年値

平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み $0\sigma \leq \text{平年偏差} < 0.6\sigma$ (σ ：標準偏差)

やや高め（やや低め） $0.6\sigma \leq \text{平年偏差} < 1.3\sigma$

かなり高め（かなり低め） $1.3\sigma \leq \text{平年偏差} < 2.0\sigma$

著しく高め（著しく低め） $2.0\sigma \leq \text{平年偏差}$

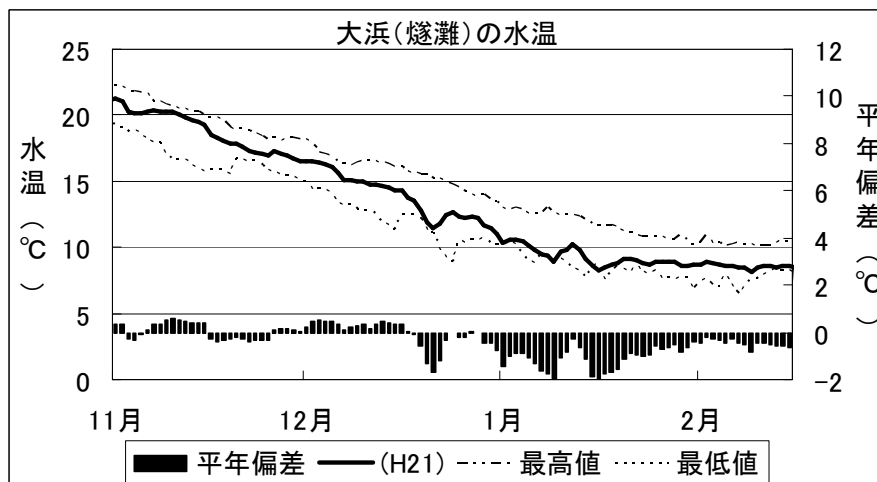
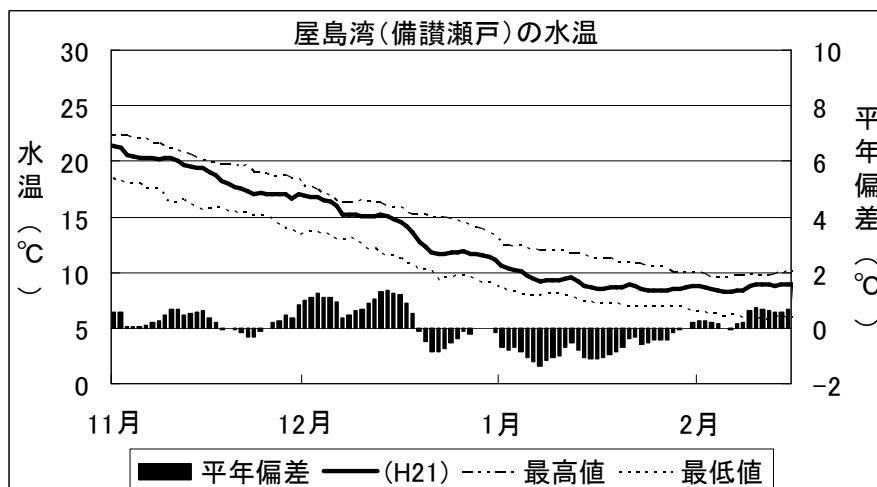
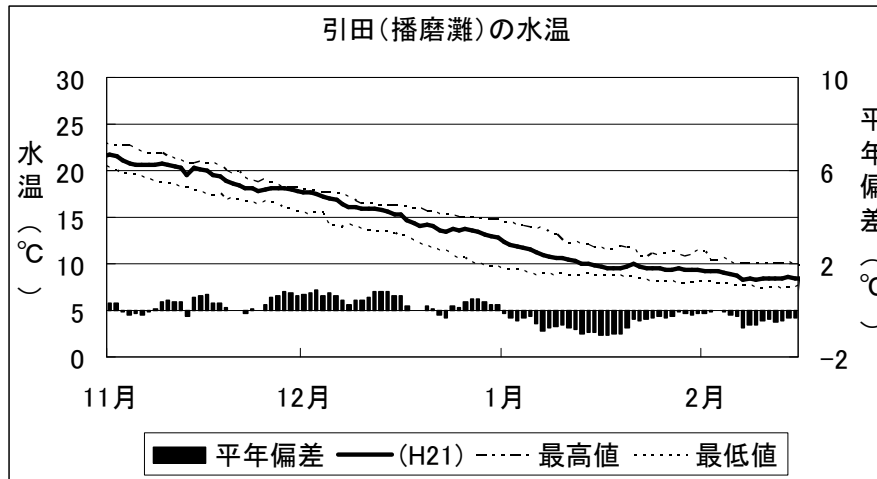
3) 定置観測 (水温)

播磨灘 (引田) : 11~12月は平年並みかやや高め, 1月からは平年並みかやや低め, 2月からは平年並みかかなり低めで推移している。

備讃瀬戸 (屋島) : 11月は平年並みで推移していたが, 12月上旬はやや高めからかなり高め, 下旬には平年並みからやや低め, 1月以後はやや低めから平年並み, 2月は平年並みからやや高めで推移している。

燧灘 (大浜) : 11月からは概ね平年並みで推移していたが, 12月下旬にかなり低めの日があった。1月以降はやや低めから著しく低め, 2月は平年並みからやや低めで推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜 : 平成元 (1989) ~平成 20 (2008) 年
屋島 : 昭和 50 (1975) ~平成 20 (2008) 年



4) 赤潮 (1月26日～2月17日)

播磨灘：発生なし。

備讃瀬戸：発生なし。

燧灘：発生なし。

5) 卵稚仔

調査日：平成22年2月1日 (備讃瀬戸, 燧灘), 5日 (播磨灘)

出現量

		カタクチイワシ		マイワシ		イカナゴ		その他の魚類	
		卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘	平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.9	0.0	3.4
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2		
	対平年 (%)	-	-	-	0	-	213		
備讃瀬戸	平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	1.1
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	2.1		
	対平年 (%)	-	-	-	0	-	13		
燧灘	平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	2.0
	平年値	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.8		
	対平年 (%)	-	-	-	0	-	64.4		
総平均	平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	1.9
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	2.2		
	対平年 (%)	-	-	-	0	-	98		

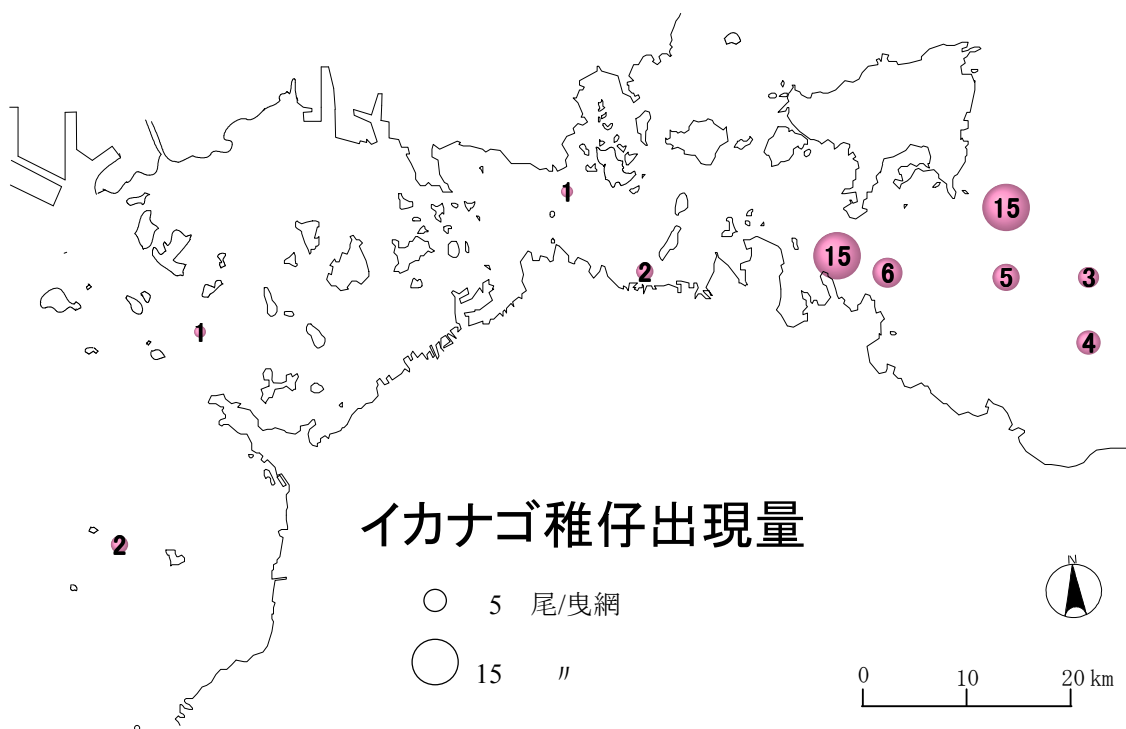
－：平年値が0の場合を示す。(その他の魚類については平年値がない。)

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55年(1980)～平成20年(2008)年度

マイワシ：平成5年(1993)～平成20年(2008)年度

今回の調査点ではカタクチイワシ卵は、確認されなかった。



2. 漁況

1月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	底びき網では主にウシノシタ類, マコガレイ, オニオコゼ, マアナゴ, 小エビ類が漁獲されている。 柵網では主にマアジ, マダイ, マコガレイが漁獲されているが, マコガレイは少ない。
備 讃 瀬 戸	底びき網では主にウシノシタ類, メイタガレイ, マアナゴ, オニオコゼ, マダイ, マダコ, イイダコ, コウイカ類, 小エビ類が漁獲されている。 中讃・高松沖のタイラギ潜水器漁業は2月になっても依然低調な漁獲が続いていて, 30~100Kg/隻/日 程度である。 高松沖のイカナゴ込し網は前年同様1月15日から操業が開始されているが, 1月の漁獲量は約3.7トンで前年の約10%と不漁である。
燧 灘	底びき網では主にメイタガレイ, マコガレイ, スズキ, イヌノシタ, オニオコゼ, マダコ, 小エビ類が漁獲されている。 建網では主にメバル, カサゴ, マダイが漁獲されている。